

花巻市環境審議会（会議録）

日 時 平成27年2月17日（火）午後2時～午後4時15分

会 場 花巻市生涯学園都市会館3階 第1会議室

出席者 委員出席者12名 阿部善郎委員、渋谷晃太郎委員、日下明久美委員、佐藤実委員、船津浩章委員、横野明彦委員、小笠原恵美子委員、久保田カネ委員、柏崎吉光委員、佐藤淑憲委員、八重樫美恵子委員、大菅智和委員

委員欠席者 7名 中村良則委員、岩田宗彦委員、八重樫理彦委員、佐々木さつき委員、玉田ゆみ子委員、岩館昌子委員、高橋好子委員

市側出席者 8名 平賀市民生活部長、倉田生活環境課長、清水同課長補佐、同課上野環境計画係長、同課葛尾上席主任、同課菊池主事、東北緑化環境保全㈱加藤尚志、同社中川治二

報道機関 0名

傍聴者 0名

次 第 1 開 会

2 あいさつ

3 議 題

(1) 花巻市環境基本計画における具体的施策の実施状況について

(2) 花巻市環境基本計画見直しに係るアンケート結果について

4 その他

5 閉 会

1 開会

（事務局：清水補佐） 本日皆様方には、何かとお忙しいところご出席いただきましてまことにありがとうございます。それでは、最初に本日配布させていただきました資料についてご確認いただきたいと思います。

（配布資料を確認）

本日の開催通知を差し上げた際には、当初、花巻市新エネルギービジョン（素案）について、委員の皆様からご意見をいただくことも議事といたしておりましたが、再生可能エネルギーの導入に係る固定価格買取制度の内容が流動的であるなど、市として現時点で新エネルギーの導入方針を示すことが適切でないと判断いたしまして、パブリックコメントと併せまして、意見をいただくことを中止させていただきましたので、ご了承をいただきたいと存じます。

それではただ今から平成26年度第2回花巻市環境審議会を開会いたします。

開会に先立ちまして、渋谷会長様からご挨拶をいただきます。

2 あいさつ

（渋谷会長） 今年の冬は雪が少なく暖かい、暖冬なのかなと思っております。多分暖房で使う灯油とかも少なくなくて済んで温暖化、CO2の排出が少し少なく済むのかなという気がしておりますし、家計にも優しいという感じがいたしております。先ほどエネルギーの話がありましたけれども、今年は京都議定書、気候変動枠組条約というものがありまして、京都議定書の第2期間に入っているのですけれども、その後の2020年以降の我

が国の、世界の温暖化に関して今年の12月に国際会議があつて、京都議定書に代わるものが作られるということになります。その時に多分3月から6月にかけて日本の排出量とかそういったものが、どうしたら良いかというのが決まってきます。おそらくそういうものが外に出て行って、エネルギー関係のものも出てくると思いますが、そういう節目の年として非常に重要な年というふうに言われております。おそらくこれ以降協議いただく市の環境基本計画もそういったものに影響されるところがあると思うのですが、今日は結構盛り沢山な内容があるようですので、1つ円滑なご審議をいただいて時間内に終わるよう進めるよう努力いたしますので、ご協力方よろしく願いいたします。

(事務局：清水補佐) 次に、平賀市民生活部長からご挨拶申し上げます。

(事務局：平賀部長) 本日は、先ほど補佐から説明がありましたとおり、新エネルギービジョンにつきましては、少し時期尚早だなということでとりあえず中断するというにさせていただいておりましたのでその辺をまずご案内申し上げたいと思います。今日の審議会につきましては、現計画における施策の実施状況等についてご説明申し上げまして、それからアンケート結果につきましてお示しして委員各位の色々なご意見を賜りまして素案のほうに結び付けていきたいという位置付けでございますので、よろしく願いいたしたいと思います。計画策定全体から見ますと、今日ご意見をいただく部分は、基礎的基本的な部分であるとは思いますが、その段階から皆さんの忌憚のないご意見を賜ることによって新たな環境基本計画が充実していくものと思っておりますので今日はよろしく願い申し上げます。

3 議事

(事務局：清水補佐) 議事に入ります前に、本日の審議会は、委員の半数以上のご出席をいただいておりますので、花巻市環境基本条例第28条第2項の規定により、会議が成立していることをご報告申し上げます。

なお、本審議会の会議につきましては花巻市審議会等の公開に関する指針に基づきまして、会議は公開ということにしておりますのでご了承願います。

それでは議事の進行を、渋谷会長をお願いいたします。

(1) 花巻市環境基本計画における具体的施策の実施状況について

(渋谷会長) それでは、議題のほうに入らせていただきます。皆様速やかな進行にご協力をお願いいたします。最初に議題(1)の花巻市環境基本計画における具体的施策の実施状況について、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

(事務局：清水補佐) 前回の環境審議会の中で不足いたしました資料につきましては、事前に郵送させていただきました。その中には現在の花巻市環境基本計画の写しも送付させていただいております。その現在の花巻市環境基本計画の具体的な施策につきましてその実施状況、平成25年度までの中身でございますけれどもその状況と主な成果指標の実績につきまして資料1と資料2を使用いたしましてご説明をいたします。

(事務局：菊池主事) 花巻市環境基本計画における具体的施策の実施状況について

～ 配布資料1について説明 ～

(事務局：清水補佐) 次に資料2を使ってお話をさせていただきたいと思います。

～ 配布資料2について説明 ～

(渋谷会長) それでは、沢山あるので1個1個というわけにはいかないので、まず、地球温暖化の防止から施策体系の括りでもしご意見があればと思いますけれども、まず(1)の温暖化からざっと目を通していただいて伺いたいと思います。また後で最後にもう一度全体で戻っても良いのですけれども、そういったふうに進めていきたいと思います。沢山あるので目を通すのも大変だとは思いますが。

(佐藤(淑)委員) 会の進め方なのですけれども、2時から始まって1時間経っているんですね。実際、今日見る資料はこれだと思うんですよ。この資料を先にいただければ事前に見ることができたのですけれども、今ここで渡されて説明を受けましたけれども、実際のところ説明というよりは読み上げだった。具体的内容についてさらに詳しく説明するのが説明であって今の説明は読み上げです。数値は中身を見ればわかる話なので、今の時間はそれほど大きな成果のある時間ではなかったのかなと思います。それと、温室効果ガスの排出量について根本的なところで、企業と各家庭の排出量の割合は何パーセントになっているのですか。

(事務局：清水補佐) 新エネルギービジョン策定の関係で調整した資料があったのですけれども、現在は、今持参しておりませんでした。

(佐藤(淑)委員) 一般的にですけれども、企業8に対して家庭は2なんですね。地域とか産業によってたぶん違うと思うのですけれども、花巻市が仮にその割合かどうかは別問題ですけれども、大きくかけ離れてはいないと思います。でもこの温室効果ガスの削減に関して対企業や事業所に対してどういうことをやっていますかということに対して実施していないという、家庭に対してはやっているけれど企業に対してはやっていないというのが多かったですよ。把握するのが難しいからとかいう理由が書かれていますけれども、把握するのが難しいからできないというのであれば、市としての役割は何なのですか。いわゆる個々に対してアプローチするのであれば、企業に対してアプローチの方が効率的ではないですか。これはなぜしないのですか。

(事務局：清水補佐) 端的に申しますと、いわゆるそうした効率が良いのは事業所というお話だと思います。確かに。ですからこちらのほうでの取り組みがされなかった、しなかったというのが、やはり原因ですね。

(事務局：倉田課長) そのような反省を踏まえましてですね、次回の新しい環境基本計画については、このような実施体制の取り組みに関しても検討した上で反映させて参りたいと思います。

(渋谷会長) 今の佐藤委員のご意見は、全体に関わってくるのですけれども、そもそも計画を策定する時は審議会を通してこういうのをやりますということを決めているわけですよ。それなのに、たとえば工場のことは実施に至らなかったというのは、その計画を何でやれなかったのかという理由があると思うんですよ。やれなかったらやれなかったで理由を述べてもらって、先に目的を作っても市のほうでできなかったと言われてもですね、計画を作る側は市に対してちゃんとやってくれるのかということになってしまうので、こういう理由でできなかったという話をしてもらわないとできなくなってしまう。それから数値目標がはっきりしないんですけど。

結果には触れましたけれども今後はやはり全体としての数値目標とか客観的に出していったって、達成率を出すというようなことをしていかなければならないのかなという気がするんですね。最初に聞いたのはなぜかという毎年チェックは不可能なので、途中で市の都合で数値目標や指標が変わったり、色々起こっていて未実施になっているとかいうことがあったりしたのでお伺いしたのですけれども、たまたま1個目で話を受けたんですけれども、たぶん沢山あるのではないかなという気がするんですね。1個1個やると大変なので、どうしましょう。これはとても重要な過去の振り返りなので、今後やって行く上でとても重要なものだと思うので、もしよろしければ、今ご説明いただいた内容をここで言うのも難しいと思うので、皆さんにもう一度見ていただいてご意見をいただくか、次回にお話をいただくこととして次の計画に活かしていくようにやっていくようにしないといけない。

(佐藤(淑)委員) この実施状況の資料は、今後どのような使い方をするのか、例えば審議会で終わるのか、その後にホームページで公開するのか、それによって吟味の仕方が違ってくるのかなと。

(事務局：倉田課長) 本日お示ししております具体的施策の内容ですとか取り組みの内容につきましては、本日議事録を作成した上で、ホームページ等で公開する形になります。

(渋谷会長) 関係すると思うのですが、例えば、次の2の1の省資源対策で、「寒さや雪などの自然条件と共存する公共施設を整備します」というのに対して、花巻市には向かないと言っているんですね。例えば、誰がどう判断してどう決めたのかということとかですね、このままオープンにするのは非常にまずい気がするんですね。やはり、オープンにする時にはもう少しきちっと評価をしてその上で出した方が良くはないかと思えますので、できましたならこの審議会のメンバーで吟味して整理してから出して行くほうがよろしいのかなと思うのですが、できなかったならばなぜできなかったのかをきちっと説明責任問われると思えますのでこのまま出すのは如何かと。表現の仕方もですね、結構ばらばらですし、計画段階でこういうふうにやりますと言って決めているわけですから、それを行政の都合で変えられるっていうのは、まずいのではないかと思えます。そういうふうにとられるということですが、もう少し時間が欲しいのももう少し時間をかけて整理していただいて、27年度が最終年度になりますから、いずれにしても計画に対しての達成率というのは、きちっと出していかなければならないと思えます。そういったものを吟味しながら進めたほうが良い気がするのですが、今後の計画策定において、絶対値をどうするかですね。毎年報告いただいている体制づくりの基本となるところですので、きちっとしておいたほうが良いのかなと。皆さんいかがでしょう。

(日下委員) まず資料2ですけれども平成19年度の欄が空欄になっているのは何ですか、お聞きしたいです。それから、数値だけ追っていても何か傾向が読めないですね。ここは取り組みが弱かったから低かったのかと思うと上がったり下がったりとか。実績の数値が果たして資料として見るのにはお粗末なのではないのかなと思えます。この数値が出てくる背景とかどういう取り組みをしてこうなったのかというものがわからない、そういうところが知りたいなと思えます。

(渋谷会長) 例えば一番端的な例が、15番の項目とかアンケートの設問の仕方が変わったからということだったけれど、数値だけ見ると全くわからないということになってしまうので、本来評価の軸というのは変えてはいけないと思うんですね。その、5年なら5年で見直すとかは結構なのですが、ちゃんと見直して変えるべきですね。途中で変えてしまうと訳がわからなくなってしまうので。そういった意味でももう少し変動の

理由とかですね、もう少し我々委員に対して説明をして納得していただいたものを出すというふうにしていったほうが良いと思うのですがいかがでしょう。

(事務局：清水補佐) 先ほどの平成19年度の空欄というのはですね、計画策定が平成18年度からスタートしておりまして、18、19年度にかけて計画策定をしました。その際、18年度でつかんだ数字を現状ということで把握した上で、計画自体は20年度からの計画ということで19年度についてはここで空欄ということにさせていただいた状況でした。19年度は空欄でなくて載せなくても良かったのかなとは思いますが、一応そういう事情があつての空欄ということでございました。

(渋谷会長) 今の説明は18年度が基準年であるよということですね。20年度からは計画開始した。だったらそういうふうには書けば良かった。27年度の目標は横にあるよということなので、20年度からの数値からあるよということですよ。ちょっと吟味している時間がないのでホームページについてはまた次回以降もう少し整理していただいたものを出していただくということで。こういうことがあるということは皆さんおわかりになっていただいたと思いますので。時間もありませんので次も結構ボリュームがあると思いますので、次に進みたいと思います。

(阿部委員) 1つ言いたいだけけれども、私、環境というものはですね、ものすごくとらえ方がですね、たとえば、環境というのは常に変化するという事なんですね。この計画は今後10年20年先まで考えていかなければならないわけですよ。そうすると、例えば現在の花巻市の人口等の状況、少子高齢化、どんどん高齢者が増えてきている、そうすると環境と言ってもですね、ただ単に自然環境とか目先の環境だけとかですね、そういうものだけをとらえていくことで良いのかというふうに考えています。実際に高齢者、介護者が増えてきますと、福祉関係に携わる人ばかりが増えてくると、地域がなんか崩壊していくような気がするんです。そういう面を考えていきますと、果たして将来の人たちが、策定したものをどう受け止めていくか、そういうことをどう位置付けていくのかということなんです。私自身も受け止め方を迷っているが、現在だけで考えて審議して果たして良いのか。環境自体が変わってきている。地域が変わってきている。いろんなものが変化している。そういうふうな花巻を考えていく、19年からスタートしたものがそれを土台にやっけてきている。その間には情勢が変わってきているものがたぶんあると思うんですね。事務局の方も苦労しているようだが、先ほども成果をパーセントで出しているのですけど。実際に固定化していいのでしょうか。環境は常に動いているんですね。実際。社会の変化をどうとらえていったらいいのか。私も悩んでいるのですけれどもね。

(渋谷会長) 何か、市のほうでは考えておりますか。

(事務局：倉田課長) なかなか今のお話は、難しいことだと思っております。個人の考え方も、環境に対する考え方も変わっていきますし、地域自体の環境も変わっていきます。例えば農村部であれば耕作放棄地が増えるといったことがありますし、山間部であれば林業との歴史関係など、そういったものでも環境の変化もありますので、社会の中における環境の考え方も変わってきていることもあると思いますので。それをどのようにとらえるのが難しいのではないかと考えておりますけれども、今回、アンケート調査も実施させていただいておりますので、その中である程度把握できる部分があるのではないかとこのふうには考えておりますけれども。それでも不足な部分につきましては、別な意味での調査が必要になってくるかもしれません。そのようなところを踏まえ

ながら今の時代、環境にマッチしたものをつくれるかどうかということは難しいとは思いますが、できる限り反映させていきたいと思っています。

(阿部委員) 今の状況に位置付けたもので策定するということですね。今の状況を踏まえた上で。それしかないということです。

(渋谷会長) 今の阿部委員のご指摘は、ある時点で、環境基本計画というものは28年から10年間だと思うのですが、長い計画になるのですが、過去の計画した時点で色々評価する時に少なくとも毎年チェックをかけるとするはずと10年そのままいいのかという議論なんです。ですから5年目に計画を直すということを入れても、その間の変化をちゃんと見ていって全体の計画は10年ですけども5年経ったところで見直すといった柔軟性を持ったものにしていくということ、例えばですね、今後議論していったらどうでしょうか、今の阿部委員のご意見はこういうことなのか。いつまでも人も自然も変わっていくことを踏まえて計画、あるいは実行していくしかないのかなと思います。また、皆さんのご意見を聞きながらどうしていくかということも考えていかなければならない。

ほかには何か全体として何かございますか。

(柏崎委員) 色々ご意見が出たと思いますが、この資料が出た以上は、これを今後、先ほど議長がおっしゃったように、ただ事務局から資料が出たよではだめなので、事務局とうちの審議会が、一体となって今日みたいな話し合いを年に何回かやって、両方で進めたいののではないかと。その時点で、やっぱり環境というのは生き物ですから変化しますから、そういう意味で審議会もそれに対応できるような持っていく方をさせていただければと思います。

(渋谷会長) 1つ提案なんですけれども、これだけのメンバーが何回も集まるのは大変なので、何人かの方に、こういう分科会じゃないですけど、ワーキンググループみたいな小さな集まりを作っていただいて頻りに市とこういう中身をチェックしてですね、そういった仕組みを作っていくと。一同に会してというのは何回もできないと思いますので、他の審議会のように分科会のようなものを作ってそういう細かい話を詰めていただくと良いのですけども。

(柏崎委員) それは必要ですね。分科会となると両方の事務局と審議会がある程度協働の話し合いになるでしょうから。そういう進め方をすれば、審議会どんとでなくて、その前に分科会で意見が出てくればやっぱりスムーズに行くのかなと。

(渋谷会長) すぐに即答はむりだと思いますのでご検討いただいて、スムーズに話が進むようにということなので、よろしくお願ひしたいと思います。

(事務局：倉田課長) 今考えましたのはですね、庁内でのワーキンググループの開催ですとか、あるいは関係する団体とのワーキンググループを何回か開催していこうと考えておりましたが、その中で、興味のあるワーキンググループのほうに委員の方々にご出席いただくことも1つの方法かなというふうにご検討しておりますので、検討して参ります。

(渋谷会長) 行政側は行政側で色々なことを考えていらっしゃると思いますので、まあ切り離せばいいのかご検討いただいて、いずれにしてもチェックを全体で行うのはなかなか難しいので、そういうのを作ってその委員からも我々も聴くというのもあっても良いのかもしれません。ちょっと仕組みをご検討いただければと思います。

それでは残り時間があまりないので、もう1つ話題がありますのでそちらに進んでいきたいと思います。

見直しの時の市民の意識みたいなものを、アンケート調査をしていただいたので、その概要について事務局より話いただければと思います。

(2) 花巻市環境基本計画見直しに係るアンケート結果について

(事務局：倉田課長) それでは私の方からアンケート調査結果の概要についてご説明させていただきたくと思いますが、詳しいアンケート結果の内容につきましては事前に配布させていただいておりましたので、それをご覧いただきながら、全部は説明しきれませんので概要ということで説明させていただきます。

～ 配布資料について説明・報告 ～

(渋谷会長) ただ今の説明でご意見とかご質問とかございますか。

これは前回と同じ設問でやったということですよ。まとめ方なのですけれども、例えば92頁はグラフが掲げられていてどれが一番高い結果かというのがわかるのですけれども、他のグラフを見ると、カテゴリーが固定されていて高い低いバラバラです。何が高いのかいちいち見なければならぬというのがあって、なんでカテゴリーを固執したのかなというのがよくわからないというのがあるのですけれども、何かそれぞれのカテゴリーにこだわったのでしょうか。

(事務局：清水補佐) 最初の92頁については、本年度だけの調査の多い順で並べておりましたが、それ以外では当然前回調査との比較があることから、どうしても必ずしも多い順に並べることができないということがありまして、そういう違いがあります。

(渋谷会長) やりようなので、なお、一番多いものから並べる方法もあったのかなと。その辺がちょっとわかりにくいというのがあったのですけれども。今何かご意見ありますか。

(佐藤(淑)委員) 少し疑問なんですけれども、アンケート結果について私達に何を聞きたいのですか。アンケート結果というのは数値であって、こういう結果になりましたと。その結果を受けて策定するにあたってこういうふうにしていきますというのが出てくればそれに対して意見を述べるのですが、数値に対して私達はそうなんですという参考資料でしかなくて議題に載っている結果については何を言えばいいのか疑問なんですけれども。

(事務局：倉田課長) アンケート結果につきましては、今回本来であれば課題等整理をいたしましてお出しすべきであったのですけれども、今回はあくまでも結果のみのご報告とさせていただいたところございます。結果につきましても十分課題を整理した上でどういう方向性で計画に反映させていけばいいのか今後委員からご意見をいただきたいと思います。

(渋谷会長) 今回は結果の報告ということでご理解いただいて、結果の評価については市のほうで分析していただいて、今後重点科目とか色々な面で使われると思いますので、その際にこういう資料を使ったとわかるようにしていただければと思います。先ほどの話の中にもあったのですが、10年経って10年前と同じ問いで比較をするということは、それは意味があると思いますが、10年経ってですね新たなことがかなり出てきていて、それに対して市民がどう考えているかがよくわからないんですね。たとえば温暖化によってかどうかはわかりませんが、気候変動が起こっていて集中豪雨があったり、色々なことが起こってきていると。そういうことをたぶん市民の方々はうすうす感じているところがあると思うんですね。そういう新しい動きとか、PM2.5とか色々な環境問題も時々刻々変わって10年経ってますから、都市のヒートアイランドの話とかそういう新しい話題に対して環境基本計画をつくる時の基準というか、基本となる市民の関心とかそういったものがとらえにくいのかなという気がするのですけれども、新しく盛り込むことに対してどうするのか。その辺がわかりにくい。自由意見のところを見ると、わかるのかもしれないのですけれども、その辺を検討していかなければならないのかなと。自由意見をよく見ると出てきているのかもしれない。そういったものが重要なのかなと思いますので。たとえば大迫ではシカが非常に増えているとか、近年数年間の話題なのですね。カモシカよりシカなんですね。一関なんかはイノシシが入り込んでいるとか新しい動きがあるので、そういうことを取り入れていかなければならないと思うのですよね。そういう話題が過去のデータの比較だけではよくわからない。プラスアルファの部分の中身と傾向を見ていただきたい。

(阿部委員) 自由意見は、話題としては必要だと思うんです。たとえばアンケート整理番号656にあるように「自然環境の中に田園風景もあると思うが、後継者がいなくなる中、又、高齢化が進み守っていくことができなくなると思う。大きな見えない日常的な問題だ」とか。456番や589番の自由意見も大事な話だ。将来につながる感じも、話題提供になる話だ。アンケートについては以上です。

(渋谷会長) 自由意見にたぶん新しい傾向というか話題がもしかしたら細かく見ていけば出てくるのかもしれませんが。例えば里山管理で人間形成うんぬんであるとか、あるいは野生動物が増えているのも新しい話題だと思いますし、増えているため意見のあるのもおそらく県の要請でもあるのかもしれない。

他の皆さんもご意見ありますか。

(佐藤(実)委員) アンケート結果について不思議に思ったのが、小学生の環境問題についての関心がぐっと低くなっているんですね。それについて深掘してなぜかというところを、たぶんわからないと思うのですけれども、機会があれば。極端になぜかなと。

(事務局：倉田課長) その点は、大変気にしているところでありまして、今の小学校からの教育の中で環境教育があまりなされていないのかどうか。その辺も調べた上で、反映させていきたいと思っています。

(渋谷会長) 全体の傾向として、アンケート調査の小学生は、やっぱり震災後だと思うのですが、環境問題への関心というのは、全体的に低下傾向にあるのではないかなという気がするんですね。原子力発電所が止まって火力発電をフルにやっているのでCO2を沢山出しているとか原因は色々あると思いますけれども、やっぱり復興を進めなければならぬという中で、環境よりも復興と。岩手県とかこちらのほうは特にそうなのですから、そういうことがあるのかなと思うのですけれども、これから10年間を見据えなければいけないので、それ

を踏まえながら現状を考えながらもっと小学生とかです、ね大人に対する環境教育というもの、そういうものを考えなければならぬのかなと思います。

(日下委員) アンケートの結果というよりも回収率についてですが、前回との比較ではないが、36%の回収率についてはどうお考えですか。

(事務局：倉田課長) アンケート調査を実施する場合、市で行う他のアンケート調査でもそうなのですが、対象者を花巻市民全員に対してするというのはかなり難しいものですが、先に抽出いたしました2,000人程度の方々を対象にしてアンケート調査を行っています。その方々から提出された結果を基にすればほぼ市民の考えていることを反映させることができるというような考え方で行っておりますので、確かに36%という数値は低いとは思いますが、この数字で市民の方々の考えは反映できると、傾向としてとらえていると考えております。

(渋谷会長) 多分この調査はですね、設問数が非常に多いのでそれで回収率が上がらないということになるんだろうと思います。前回と同じにやらなければならないというのがあってなのですが、アンケートを出してくれただけで何かつけてあげるくらいのことやらないと出してくれないくらい量なんです。今後工夫するとすれば色々な方法を考えなければならないと思うのですけれども、前回と同様の方法でやったので比較はできるのかなということだろうと思います。

それでは時間も大分経過しましたので、とりあえずこの辺で終わらせていただきたいと思いますが、最初の具体的施策の実施状況につきましては、お気づきの点がございましたら、市のほうにメール、手紙等を出していただければと思います。市に直接伝えるということで審議会としても協力していきたいと思いますが、その上で直していただいたものを色々なやり方を考えてもらって準備していくということにさせていただければと思います。

それでは事務局の方にお返しします。

4 その他

(事務局：清水補佐) ありがとうございます。私のほうからその他ということでお話させていただきます。

今回今までの経過、アンケートの結果の中身を皆さんにまずご覧いただいた上でまず率直なご意見をいただければ良いのかなということで、本日は開催させていただいた訳なのですが、アンケートの結果等を踏まえましてこれから年度内に素案を一旦作成するというふうにしてございます。そして、4月以降ですね、市役所の中の関係課との調整も当然ございますし、もう1つ市民エコワーキングという形で、前回もそうだったので、20人程度の各環境分野に関わる団体、個人もそうなので、その方々にエコワーキングしていただいて中身を揉んでいただくということで考えてございます。それと、その中身をもって次の環境審議会のほうにご意見をいただく場を設けたいというふうに思っております。次回は7月頃の開催と考えてございました。その際はよろしくお願ひしたいと思います。一応そういった日程でこれからの計画ということでお諮りさせていただきたいと思います。

(渋谷会長) エコワーキングとかの会議の時に審議会の方に参加していただくということでよろしいでしょうか。

(事務局：清水補佐) それでですね、本来の環境審議会の委員さんの立場というのは次は、素案がある程度、正案に近いものになった段階で、諮問させていただいて、それに対していだろうという答申をいただくというのが環境審議会の本来の役割がありまして。ですので、その中で並行して委員さんがエコワーキングの委員さんになるというのもそれは悪くはないのではないかとってはいるのですが、その辺のところが一応各団体からお願いした場合は、共通の団体の中としてはうまく調整ができるかもしれないので、検討した上で進めたいと思っております。基本は分けたいというのが本来の形でございます。

(渋谷会長) 7月以降の予定はどんな感じですか。今日みたいに当日示されて見てくださいと言われても困るので。

(事務局：清水補佐) いずれ、エコワーキングのほうで調整した内容を当然前もって委員の方には送付させていただいて、その中身をご覧いただいた上で2週間後に会議を開催させていただくという形になると思います。

(渋谷会長) おそらく1回では終わらないので、数回やらなければならないのではないかと思います。その辺は大丈夫ですか。

(事務局：清水補佐) 一応今後は4回を予定しておりました。エコワーキングは3回予定しておまして、そのほかに審議会は4回ということで計画はしておりました。

(佐藤(淑)委員) 来年度4回ということですね。

(事務局：清水補佐) 今までの分は別で、これからということで来年度は一応4回ということで計画しておりました。最初は7月頃ということで。

(佐藤(淑)委員) すでに素案はもう出ていますよね。

(事務局：清水補佐) それはエネルギービジョンの分なので。

(渋谷会長) エネルギービジョンが、政府と東北電力とかの方向が決まったら、また審議会をするのですか。それは別ですか。

(事務局：清水補佐) それはそれで一応考えてはみたいと思いますが。

(渋谷会長) それがないとたぶん環境基本計画とか作れないと思うんですけども。

(事務局：清水補佐) 環境審議会のほうにはご意見を聴く場を設けたいとは思ってはいますが、問題はエネルギービジョンは実際の市民に対してこういった形でと素案を皆さんにお渡ししておりましたけれども、これを本

当に市民の方々にこのようにお願いしますねというようにこれから新しいエネルギーを使って今後は地球温暖化防止のために対策をしていきたいと思いますということを出せるのであれば、もう一度皆さんのほうからご意見をいただくのですけれども、あくまでもこれが行政だけの計画で終わるという可能性がもう1つの方向としては考えているところでもあります。ですので、一旦は延期するのではなくて中止しますという取扱いにしておりました。ですから、エネルギービジョンとして本当に市民の方々にお示しするということが決まった場合は、皆さんにお願いをしてご意見をいただくということになります。そうではなくて、我々の市役所の中でこういった新エネルギーを使っていきたいと思いますという内部計画ということで収まるのであれば、もう1回お聴きすることはその場合はありません。

ということでご理解をいただきたいと思っております。

(渋谷会長) それでは今の中身のチェックとかそういうことに関してはどうするかということは検討していただいて、このまま出すのは難しいと思いますので、ご意見を聴いて直していったほうが良いと思いますので。その辺ご検討をお願いいたします。

それでは次は7月ということで。

(事務局：清水補佐) 計画ではそのように進めたいと思っております。その際は改めてご通知申し上げたいと思いますのでよろしく願いいたします。

5 閉会

(事務局：清水補佐) これをもちまして第2回の花巻市環境審議会を終わらせていただきたいと思います。本日は長時間大変ありがとうございました。